

2017年8月21日

台東区サッカー連盟運営部・審判部

台東区 ジュニアスクールカップ・スクールリーグ 競技規則

1 競技のフィールド

- ・ フィールドの大きさ：タッチライン 36m、ゴールライン 22m
- ・ ゴール：ポストの間隔 3 m、クロスバーからピッチ面まで 2 m
- ・ ペナルティーエリア：ゴールポストの外側から半径 6 m の四分円を描き、それぞれの上端をゴールラインに平行なラインで結んだエリア
- ・ ペナルティーマーク：両ゴールポストの中央から 6 m の位置
- ・ センターサークル：センターマークから半径 3 m の円
- ・ コーナーアーク：各コーナーの半径 25cm の四分円

2 ボール

- ・ サッカー 4 号球を使用

3 競技者

- ・ 競技者の数：1 チーム 6 人（うち 1 人はゴールキーパー）とし、一方のチームが 4 人に満たない場合は試合を開始しない
- ・ 一方のチームが 6 人に満たない場合、両チーム合意の上、極力両チーム同数とする
- ・ 競技者の交代：交代要員の数に制限は設けない
- ・ 交代の手続き：ボールがインプレー、アウトプレーに関わらず、主審の承認を得ることなく自由に行うことができるが、フィールドに 6 人を超える競技者が入ってはならない

4 競技者の用具

- ・ チームで同一の、袖のあるシャツ・ショーツ・ソックスを着用し、すね当てをする
- ・ ゴールキーパーとフィールドプレイヤーは異なる色彩のシャツを着用する
- ・ 両チームと審判員が区別できる色の服装を着用し、同色彩の場合はビブスで区別する
- ・ 競技中の眼鏡の使用は、スポーツ用に認められたもののみ可とする

5 主審

- ・ 試合は 1 人の主審によって運営される
- ・ 主審は審判服を着用し、笛・時計・レッドカードとイエローカード、ノートを携行する
- ・ 主審はサッカー審判員またはフットサル審判員の資格を持ったものが当たることを基本とし、各チームは有資格者の確保に努めること

6 その他の審判員

- ・ 大会本部にタイムキーパーを置き、試合の開始・終了はタイムキーパーの合図で行う

7 試合時間

- ・ 1 試合 10 分、途中でインターバルはとらない

- ・ 終了の合図の前に、ゴール方向にボールがプレーされた場合、主審はそのボールの行方を確認してから終了する（そのままゴールインした場合は得点を認める）
- ・ 直接フリーキック、間接フリーキックまたはペナルティーキックが与えられ、キックの前に終了の合図があった場合、与えられたキックの行方を確認してから終了する

8 プレーの開始および再開

- ・ コイントスに勝ったチームが攻めるゴールを決め、相手チームがキックオフを行う
- ・ キックオフから直接相手のゴールに入った場合、相手にゴールスローが与えられる
- ・ ボールが蹴られて明らかに動いたときインプレーとなる
- ・ ボール全体がタッチラインを超えた場合、最後にボールに触れた競技者の相手チームのスローインで再開する
- ・ ボール全体がゴールラインを超えた場合、最後にボールに触れたのが攻撃側競技者の場合、ゴールキーパーからのゴールスローで再開する
- ・ 守備側競技者が最後に触れたボール全体がゴールラインを超えた場合、攻撃側チームにコーナーキックが与えられる
- ・ 直接フリーキック・間接フリーキックの場合、相手競技者はボールの位置から5m離れていなければならない

9 ボールインプレーおよびボールアウトオブプレイ

- ・ ピッチ上または空中で、ボールがゴールラインまたはタッチラインを完全に超えた場合、および主審がプレーを停止した場合、ボールはアウトオブプレイとなる

10 試合結果の決定

- ・ 試合終了時に得点の多いチームの勝利とし、同得点の場合は引き分けとする

11 オフサイド

- ・ オフサイドはとらない

12 ファウルと不正行為

- ・ 相手競技者に対して不用意に、無謀に、または過剰な力で次の反則を犯したと主審が判断した場合、相手チームに直接フリーキックが与えられる
 - チャージする、飛びかかる、ける（けるうとする）、押す、打つ（打とうとする）
 - タックルする（タックルを挑む）、つまづかせる（つまづかせようとする）
- ・ 競技者が次の反則を犯した場合、相手チームに直接フリーキックが与えられる
 - ボールを意図的に手または腕で扱う、相手競技者を押さえる
 - 身体的接触によって相手競技者を妨げる
- ・ 競技者が次のことを行った場合、相手チームに間接フリーキックが与えられる
 - 危険な方法でプレー、身体的積極を伴わず相手競技者の進行を妨げる
- ・ ボールが味方競技者によって意図的にゴールキーパーにキックされたボールを、ゴールキーパーが手で触れた場合、間接フリーキックが与えられる

- ・ 競技者は、次の場合警告される
 - プレーの再開を遅らせる、言葉・行動により意義を示す、主審の承認を得ずピッチに入る
 - プレー再開時に規定の距離を守らない、くり返し反則する、反スポーツ的行為を犯す
- ・ 競技者は次の反則のいずれかを犯した場合、退場を命じられる
 - GK以外の競技者が意図的に手を使い、相手チームの得点・決定的な得点の機会を阻止
 - 著しく不正なプレーを犯す、乱暴な行為を犯す、同じ試合で二つ目の警告を受ける
- ・ 退場を命じられた競技者は、次の試合に出場できない
- ・ 競技者が退場を命じられた場合、その競技者のチームは別の競技者を補充することができる

13 フリーキック

- ・ 直接フリーキックから、ボールが相手ゴールに直接入った場合、得点となる
- ・ 間接フリーキックから、ボールが相手ゴールに直接入った場合、ゴールスローが与えられる

14 ペナルティーキック

- ・ 攻撃側競技者がペナルティーエリアの中で、直接フリーキックとなる反則を犯したときは、ペナルティーキックが与えられる

15 スローイン

- ・ スローインから直接得点することはできない
- ・ ボールを入れるスローワーは、両足をタッチライン上またはタッチラインの外のピッチにつけ、頭の後方から頭上を通して、両手でボールを投げなければならない
 - * 正しくスローインが行われなかった場合、当面は反則とせずやり直しとする措置を設ける
- ・ 相手競技者はスローワーから2 m以上離れなければならない

16 ゴールスロー

- ・ ゴールキーパーが投げたボールが、ペナルティーエリア外に出たときにインプレーとなる
- ・ ゴールスローは、ハーフウェーラインを超えた味方競技者に投げてもよいが、ゴールスローから直接得点することはできない
- ・ ゴールスローがペナルティーエリア外で行われた場合は、相手チームに直接フリーキックが与えられる

17 コーナーキック

- ・ ボールが蹴られて明らかに動いたときにインプレーとなる
- ・ 相手競技者はボールがオンプレーになるまでコーナーアークから5 m離れなければならない
- ・ インプレーとなったボールに他の競技者が触れる前に、キッカーが再びボールに触れた場合、間接フリーキックが与えられる